

ケース会議によくありがちなしんどさ

- * ケース会議には時間がかかる。
- * 資料の準備が大変。
- * ケース会議のたびに担任の負担が増える(気がする)。
- * 担任ばかりが責められる。
- * いろいろ話しているだけでまとまらない。
- * 自由に話すと言いながら、何をどう話していいかわからない。
- * 誰も話さないのていたたまれないことがある。
- * 発言したのに、自分のやり方を責められる。
- * 何をどうしていいのかわからないまま終わってしまう。
- * 児童生徒が何に困っているのかわ見立てがないのに、対応だけ話し合う。
- * 決めた対応でいいのかわ、不安が残ったまま。
- * 声の大きい人、発言の影響力の強い人にもってかれる。
- * 担当じゃないのにケース会議に混ぜられたと思っている人がいる。
- * ケース会議で話し合ったことが何だったかわっきりなくて支援が続かない。

ケース会議
かあ...

担任

気になったら 30分でケース会議



Episode Process 「イーピー」と呼んでください

どの先生にもわかりやすく、どの学校でも使いやすい
チームによる支援を促進させるケース会議

エピソードプロセスの仕組み 30分間でできるケース会議の手順

ケース会議を5つの手順で構成し、見立てから手立てへとつなぎます。
ケース会議の資料には、エピソードシートを使います。2回目以降は、前までのホワイトボードの画像記録も参考にします。



チームによる支援とは

困難な状況にある児童生徒への対応として、本人や家族、複数の教職員や専門スタッフ (SC,SSW等)、関係機関等の援助者が連携して、児童生徒についての情報を収集しながら支援方針を共有し、援助活動を行うこと。



epを用いてケース会議の仕組みを整えることで、学校がこれまで取り組んできたやり方と合わせて、深い児童生徒理解に基づき、見立てと手立てを展開する学校ごとの特色あるかたちが生まれることが期待されます。



エピソードプロセスの特徴 ケース会議のしんどさを解消し、担任を励ます設計

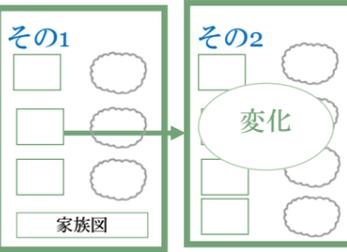
- ⇒ 会議の時間が短い。(約30分間の構成)
- ⇒ 会議資料の負担が少ない。(気になるエピソード等をさっと書くだけ)
- ⇒ 会議の手順がはっきりしていて、ケース会議の目標に届きやすい。(シナリオ形式)
- ⇒ 見立てを基に手立てへと対応が広がる。(見立てから手立てへの段階的な展開)
- ⇒ 担任ばかりが責められない。(ホワイトボードを正面にした話し合いの場面設定)
- ⇒ ケース会議を通して児童生徒理解が深まる。(心情の想像や援助資源の理解と活用)
- ⇒ 担任ではなく、児童生徒の困難に着目しやすい話し合い。(ホワイトボードを中心として半円形に座る会議形式)
- ⇒ 情報と検討過程がよく見渡せて、共有し、集積しやすい。(ホワイトボード等への板書を画像で記録)

エピソードプロセスは、気になるエピソードを基に、児童生徒の行動の要因や心情を捉えて困難の状況を見立て、できていることやもっているものを活かした具体的な手立てについて、約30分間で検討する構成的なケース会議の仕組みです。

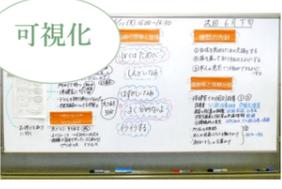
チーム力の向上、児童生徒の見方や関わり方、支援の継続等、学校におけるチームによる支援体制づくりにより影響があることが明らかになっています。

なんかいい
感じで...

エピソードプロセス活用のための「チーム支援シート」 具体的なワークシートを作成し提供



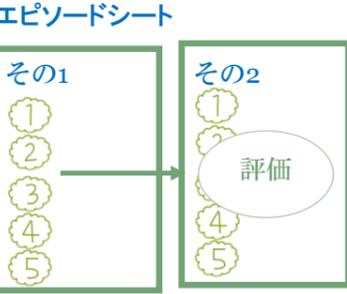
担任が児童生徒の気になるエピソードと心情について担任なりの捉え方を書きます。手書き推奨。ケース会議毎に書きます。その1は初回で使います。分かる範囲で、家族関係の情報が入ります。その2は2回目以降に使います。



会議の記録は、検討の過程を可視化し、共有するために、記録者が板書します。それをそのまま画像にして、記録として継続します。うまくいかないときに、前に出てきたことを振り返ることで打開策につながることもあります。

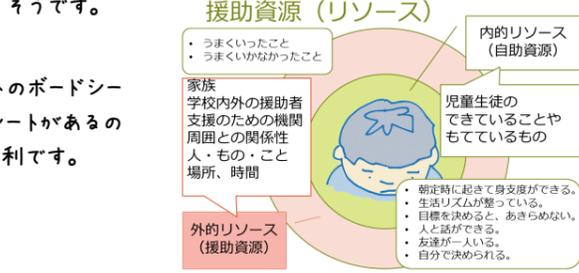
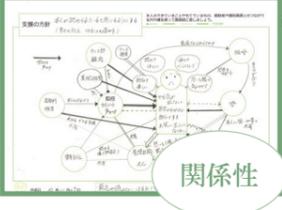
記録はデジカメ

板書の構成と同じフォーマットのボードシートがあります。板書の項目のシートがあるので、マグネットシートにすると便利です。



ケース会議は進行表で進めます。進行役は、台詞を読み、時間にできるだけ忠実に展開します。やり方に慣れるまでは、できるだけそのまま読み上げましょう。その1は初回。その2では取組を評価し、見直すように構成しています。

ケース会議進行表



記録等をもとに、児童生徒のできていることやもっているもの、援助者や援助資源とのつながりを円や線を使って関係図に表します。児童生徒への支援には、本人のできていることやもっているもの、支援の中でうまくいったことやそうできなかったことを援助資源(リソース)として活かすことが必要です。